

協議事項(1):知立市地域公共交通網形成計画の評価結果及び地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

1. 地域公共交通網形成計画の評価結果及び地域公共交通確保維持改善に関する自己評価

(1)評価の目的

当市では令和元年3月に策定した知立市地域公共交通網形成計画に基づき、各種事業に取り組んでおり、令和6年度における各種事業の実施状況や結果、評価指標の達成状況について、自己評価を行い、地域が抱える交通課題が解決できたかどうかを判断し、必要な改善策を検討するために行うものです。

自己評価等は当交通会議で行うため、協議事項として議決が必要となります。

(2)第三者評価委員会

各交通会議(協議会)の自己評価について、有識者を交えて客観的な立場から取組の改善に向けた助言をするため、中部運輸局により平成23年度以降毎年、第三者評価委員会を開催されています。

当市交通会議は令和8年2月10日(火)に開かれる第三者評価委員会に出席し、評価及び助言を受けます。

(3)評価対象期間

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| ・地域公共交通網形成計画 | 令和6年度(令和6年 4月1日～令和7年3月31日) |
| ・地域公共交通確保維持改善事業 | 令和7年度(令和6年10月1日～令和7年9月30日) |

2. 第三者評価委員会に係る提出資料(中部様式)について

(1)中部様式

地域公共交通確保維持改善事業費補助金交付要綱等に定められる事業評価に加え、中部運輸局独自に地域全体の公共交通に関する取組に対して評価、助言等を実施されています。令和3年度からは地域公共交通計画の評価結果も評価の対象として開催されており、評価を受ける際の様式が中部様式となります。

(2)提出期限

令和8年1月16日(金)

【 余 白 】

中部様式

令和 7 年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要 (全体)

知立市総合公共交通会議 (知立市)

平成 1 9 年 9 月 1 日設置

令和元年 3 月 2 2 日 知立市地域公共交通計画策定
(計画期間：令和元年 4 月～令和 9 年 3 月)

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・ 地域間幹線系統確保維持国庫補助金

「安らぎ・にぎわう 住みよさを誇れるまち 知立」の実現に向けて

- 基本方針Ⅰ** 現行サービスの確保・維持を基本としつつ、安全で利用しやすい公共交通サービスを充実
- 基本方針Ⅱ** 知立駅を中心とした利便性の高い公共交通ネットワークを形成し、市内各地域との連携を強化
- 基本方針Ⅲ** 知立市の公共交通に関わる全ての関係者が連携・協働し、公共交通を支え育む仕組みを構築

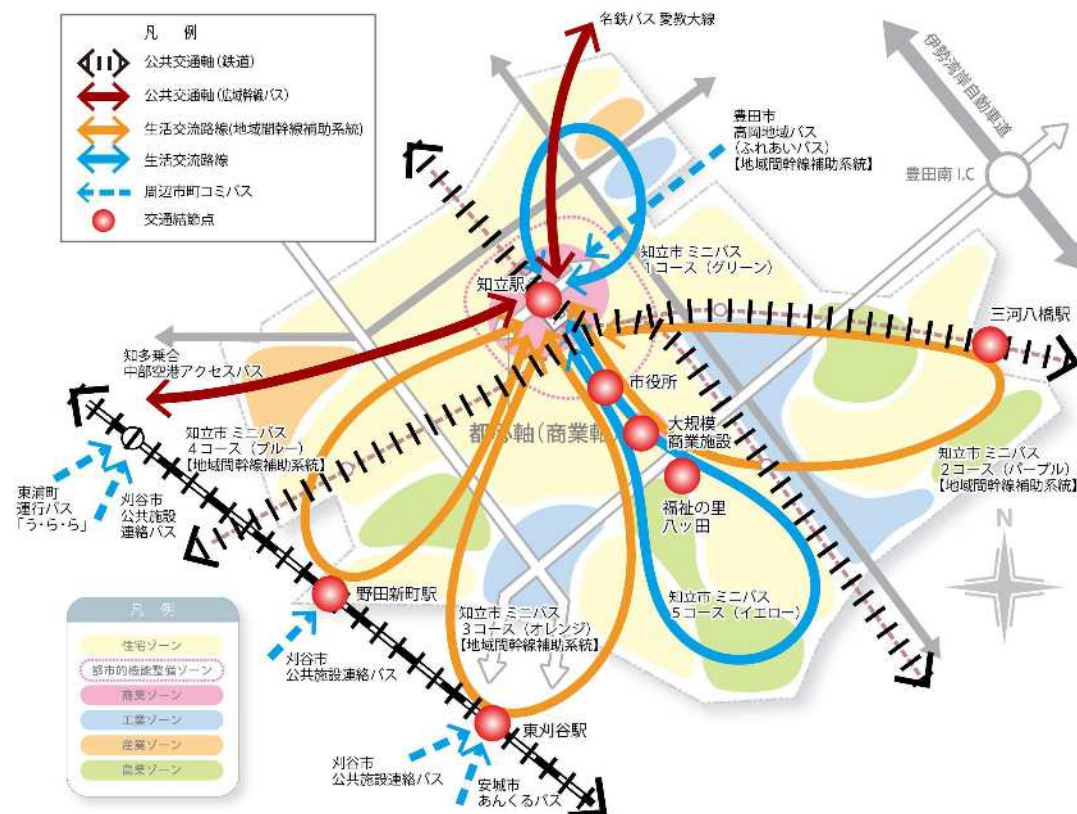
▼知立市における地域公共交通体系のイメージ

【知立市の概要】（令和7年4月現在）

- 人口：72,557人
- 鉄道：名鉄名古屋本線と名鉄三河線が知立駅で接続し、市内には4駅が所在
- バス：名鉄バス愛教大線、知多バス空港アクセスバス（運休中）、高岡ふれあいバス、ミニバス5コースが運行

【計画策定の背景】

知立市立地適正化計画に示す将来都市構造の実現のため、まちづくりと一体となった持続可能な公共交通ネットワークを形成することを目的として、令和元年3月に知立市地域公共交通網形成計画を策定した。



2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

3

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
基本方針 1 (1) 利用者目線による分かりやすい情報の提供 ①ミニバスdeお出かけモデルコース冊子の作成	■バスを利用したことが無い方が利用するきっかけ作りとして、ミニバスや刈谷市・安城市・豊田市のコミュニティバスを利用したモデルコース冊子を作成し、各市役所等で配布、市ホームページで公開	■市内高齢者の団体が活動に取り入れ、実際に実施、今後年2回程度の実施を検討 ■関係市にも積極的に配布し、窓口やイベント等で配布。連携が深まった	■令和5年度から市内高齢者の団体が活動に取り入れ、参加者からはバスの便が合わない時間帯は歩くなど健康づくりにも活かせるとの声が聞かれた。
基本方針 1 (1) 利用者目線による分かりやすい情報の提供 ②バスロケーションシステムの導入	■パソコンやスマートフォンなどでバスの運行状況が確認できるシステムを導入 ■各バス停の時刻表にバスロケの二次元コードを掲載するとともに、利用方法を掲示することで初めて利用する人にも配慮	■遅延に対する苦情等が2～3件/月のところ0～1件/月程度に減少	■各バス停に二次元コードを掲載したことが功を奏したと考える。 ■一方で画面が見にくい、わかりにくいという声もあるため、費用対効果を鑑みながら改善策を検討する。
基本方針 1 (1) 利用者目線による分かりやすい情報の提供 ③G T F Sデータの整備とGoogleMapへの経路掲載	■G T F Sデータを整備し、データリポジトリにて公開 ■各路線検索サイト・アプリに路線情報を掲載 ■利用率の高いGoogleMapにルートに掲載することにより、利用者の利便性を向上	■実際の各サイトのアクセス数やアプリでの検索数等は不明 ■アプリ等利用していると考えられる若中年齢層からの乗換についての問い合わせはほぼない状況	■検索の手段を増やすことが出来たため、利用者の利便性は向上したと考えられる。
基本方針 2 (2) 利用促進を誘導する施策 ④夏休み期間中の中学生乗車無料キャンペーン	■中学生が公共交通を利用するきっかけ作りとして、夏休み期間中はバス降車時に乗務員に生徒手帳等を見せるとミニバスを無料で利用できる取組を実施	・令和5年度利用者数：475人 ・令和6年度利用者数：439人 (各年利用率は全生徒数の約23%)	■コロナ禍にあった令和2年度を除き平均で400人以上が利用しており、乗車記録からプールや近隣のショッピングモールへの移動に利用していると考えられる。
基本方針 2 (2) 利用促進を誘導する施策 ⑤運転免許自主返納者支援事業	■運転免許証を自主返納した65歳以上75歳未満の市民に対してミニバス乗車券を発行	■乗車料金種別調査によると令和6年度の全利用者約27万人のうち約3%が自主返納者の利用 ・利用者数(推定)8,200人	■75歳になると高齢者ミニバス運賃無料化事業に移行し、減少するはずだが、毎年3%で推移しているため、毎年一定数が返納し、交通手段として活用されていると考えられる。

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

4

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
基本方針2 (2) 利用促進を誘導する施策 ⑥高齢者ミニバス運賃無料化事業	■75歳以上の市民は、ミニバス無料パスケースに後期高齢者証明書(現後期高齢者医療被保険者証)をパスケースに入れて利用することで、無料で乗車が可能	■乗車料金種別調査によると令和6年度の全利用者約27万人のうち約31%が75歳以上の高齢者の利用 ・利用者数(推定)83,700人	■市北西部を周回する1コースでは75歳以上の高齢者利用が平均49%と半数近くを占めており、高齢者のお出かけ需要に応えられていると考えられる。
基本方針3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着(マイバス意識)を高める施策 ⑦乗車体験イベント	■公共交通の認知度の低い若中年齢層を対象に、市内で開催される親子向けイベントにミニバス等を展示、実際に乗車して車両に触れてもらうことにより、公共交通を利用するきっかけとする	■ちりゅう子どもフェスティバルにて乗車体験を実施 ・令和5年度:参加者数804人 ・令和6年度:参加者数868人 ※令和6年度はタクシーの乗車体験も併催	■令和6年度の乗車体験時のアンケートでは令和5年度のイベント開催後にミニバスを利用したかの問いに乗車したと回答された人が約40%で、一定の啓発結果はあったと考えられる。
基本方針3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着(マイバス意識)を高める施策 ⑧マルシェイベントと連携したミニバス利用促進キャンペーン	■コロナ禍による利用者が減少した公共交通の需要回復のため、様々な公共交通の利用が可能となる知立駅で開催されるマルシェでミニバス無料乗車券を配布 ■バス運行時間帯以外にはタクシーも利用してもらえるよう周知	■10月から2月まで4回開催された知立ドリームマルシェにて買物をした人に無料乗車券を配付(計1,600枚) ・令和4年度:利用者数235人(配付枚数の14.7%の利用率)	■周知にSNSを活用する等、主な客層である若中年齢層が情報を得やすくするよう工夫したが、思うように利用が伸びなかった。 ■自家用車ではなく公共交通を使うことの優位性に着目し、PRする必要がある。
基本方針3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着(マイバス意識)を高める施策 ⑨ミニバス車内ギャラリー	■ミニバス車内に公募による市民の作品を掲示することにより、ミニバスに親しみをもってもらうことを目的として実施	■12月下旬から3月末までの間、親子川柳入選作品を及び市内中学生が描いた川柳の挿絵を掲示 ・令和6年度:60首 ■各種健診、選挙啓発等の行政情報を掲示 ・令和6年度:5件	■当初は絵葉書等ギャラリーらしい掲示を行っていたが、近年は公募せず、ほぼ親子川柳用の事業となっている。 ■コロナ禍を経て自宅でできる趣味の活動が増えたため、再度公募することを検討したい。
基本方針3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着(マイバス意識)を高める施策 ⑩ミニバス車体広告事業	■ミニバス運行における自主財源の確保と地域経済の振興を図ることを目的として実施	・令和4年度:1社 277,950円 ・令和5年度:2社 550,716円 ・令和6年度:4社 890,462円	■毎年コンスタントに掲載件数が増加しており、広告収入も比例して増加している。 ■運転席側の掲載スペースが不人気のため、㎡当たり単価を下げる等検討する必要がある。

2.【Do】目標達成に向けた公共交通に関する主な具体的取組

5

取組名称	取組の概要	実施結果	実施結果の考察
基本方針3 (3) 地域づくりと一体となったバスへの愛着（マイバス意識）を高める施策 ⑪ミニバスデジタルサイネージ事業	■ミニバス車内にデジタルサイネージを設置し、民間事業者等の広告及び市のイベント情報や啓発情報を放映。市民に情報提供し、市民サービスの維持・向上を図る	・令和5年度： 民間企業 計20社 行政情報 計10件 ・令和6年度： 民間企業 計22社 行政情報 計28件	■デジタルサイネージでの行政情報等の放映はデータをパワーポイントで作成できるなど、手軽で年々掲載件数が増加している。



①ミニバスdeお出かけモデルコース



⑦ミニバス・タクシー乗車体験



⑧マルシェでの無料乗車券配付



⑪ミニバスデジタルサイネージ



③GTF Sデータの整備とGoogleMapへの経路掲載

■計画全体の目標値

目標	目標とする指標	目標値 [R8]	評価値 [R6,7]	現況値 [H28,29]	考察
公共交通利用者数の維持・増加	市内公共交通計	24,185人/日	21,405人/日	23,544人/日	目標値設定がコロナ禍前であることから評価値と乖離しているが、バス路線については目標値を上回った。
公共交通利用割合の向上	鉄道	83.1%以上	79.0%	83.1%	コロナ禍から約5年が経過し、電車を利用した通勤者数の減少や、通勤手段・頻度の変化により低下した。
	空港バス	14.6%以上	—	14.6%	(大幅な減便があったため調査未実施)
	路線バス	13.0%以上	13.4%	13.0%	沿線住民の知立駅や刈谷市方向への移動手段として、大きな変化なく役割を果たしている。
	ミニバス	24.6%以上	26.3%	24.6%	計画策定後、様々な乗車機会創出の取組を実施した結果、目標値を上回った。

■基本方針Ⅰの目標値

目標	目標とする指標	目標値 [R8]	評価値 [R6,7]	現況値 [H28,29]	考察
公共交通総合満足度の向上	公共交通総合満足度	26.1%以上	33.6%	26.1%	知立駅連続立体交差事業をはじめ、大小様々な公共交通関連事業が進行し、目に見えた変化や体感により、公共交通への関心や期待感が高まったため。

■基本方針Ⅱの目標値

目標	目標とする指標	目標値 [R8]	評価値 [R6,7]	現況値 [H28,29]	考察
公共交通を利用して知立駅周辺に来訪する人数の維持・増加	鉄道	17,000人/日	14,601人/日	16,544人/日	電車を利用した通勤者数の減少や、通勤手段・頻度の変化により目標値を達成できなかった。
	空港バス	35人/日	0.6人/日	32人/日	令和6年11月に運休となり、大幅に減少した。
	路線バス	1,500人/日	1,200人/日	1,456人/日	路線バスを利用した通学者数の減少や、通学手段・頻度の変化により目標値を達成できなかった。
	ミニバス	250人/日	182人/日	218人/日	上記に加え、ミニバスを利用した買物・通院の減少や、利用する交通手段・頻度の変化により目標値を達成できなかった。

■基本方針Ⅲの目標値

目標	目標とする指標	目標値 [R8]	評価値 [R6,7]	現況値 [H28,29]	考察
公共交通に関する認知度の向上	市内をミニバスが走っていること	91.8%	92.5%	91.8%	運行20周年事業の実施や、転入者への案内にバスマップを同封する等の取組により、認知度が向上した。
	自宅近くを走るバスで行くことのできる施設	27.4%	25.3%	27.4%	「ミニバスモデルコース」を作成・公開する等の取組を行ったが、目標値を達成できなかった。

■地域公共交通計画における今後の方針

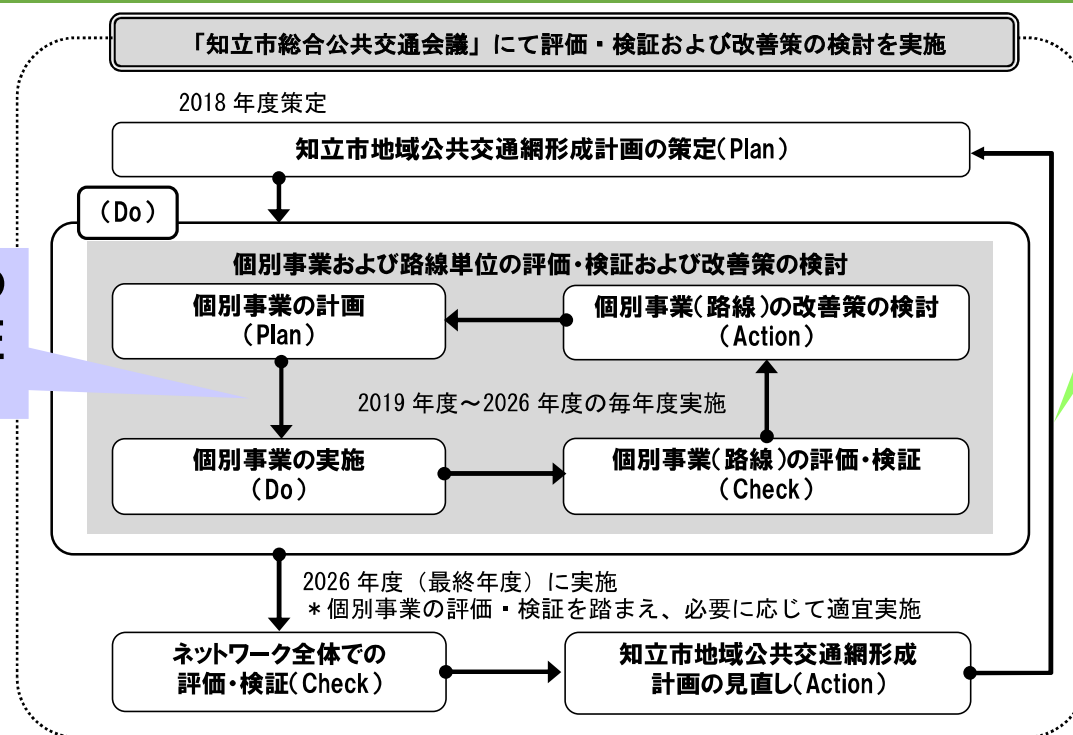
今後の方針

公共交通利用者数の維持・増加	公共交通利用者数	<p>■知立駅連続立体交差事業や知立駅周辺整備土地地区画整理事業、再開発事業による交通状況の変化に合わせ、「まちづくりと連携」した公共交通ネットワークの再編を行い、八橋かきつばた園や知立神社等「観光振興との連携」、鉄道・路線バス・ミニバス及びタクシー等の「多様な公共交通の連携」を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車内デジタルサイネージ等での連続立体交差事業の進捗情報の提供 ・同じくデジタルサイネージでの観光情報の提供 ・公共交通利用者が受けられるインセンティブ（割引等）の検討 ・エリアパス等の検討 ・CentXやmy routeなどMaaS実証事業の検討
公共交通利用割合の向上	鉄道利用者数	<p>■事業者と協力したウォーキングツアー等を検討・実施し、利用を促進する。 ■こどもmanacaなど運行事業者が実施している施策の情報提供を行う。</p>
	空港バス利用者数	<p>■運行事業者と利用実態等の情報共有を行い、運行再開に向けての方策を検討する。</p>
	路線バス利用者数	<p>■運行事業者と利用実態等の情報共有を行い、利用促進の方策を検討する。 ■シルバーパスなど運行事業者が実施している施策の情報提供を行う。</p>
	ミニバス利用者数	<p>■地域間幹線系統である豊田市に乗り入れる2（パープル）コース、刈谷市に乗り入れる4（ブルー）コースについて、関係2市と連携し、利用促進のための施策を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市との協議の場を設定 ・地域性やニーズ把握など情報を共有する。
	タクシー利用者数	<p>■運行事業者と利用実態等の情報共有を行い、利用促進の方策を検討する。</p>

年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回			
		該当ありません	
前々回			

※前回：○年○月○日、前々回：○年○月○日

**個別事業の
評価・検証**
毎年度



**計画全体の
評価・検証**

中間年度
及び
最終年度

■ 知立市総合公共交通会議等の直近 1 年間の実施状況

第 1 回 知立市総合公共交通会議 令和 6 年 5 月 3 日

主な議題：令和 7 年度地域公共交通網形成計画の別紙について

第 2 回 知立市総合公共交通会議 令和 6 年 11 月 26 日

主な議題：地域公共交通確保維持事業の事業評価について

第 3 回 知立市総合公共交通会議 令和 7 年 3 月 28 日

主な議題：令和 7 年度地域公共交通事業スケジュールについて